教材研究ノート№3-A-18

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・それぞれの代金を乗法で，違いを減法で求めることができる。

・図や絵をかいて数量関係をつかむことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・加法と乗法を組み合わせた問題で，まとまりをつくって考えたり式から何を求めているのか考えたりする学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・一人分の違いに着目して，全体の違いを求める経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・1組のまとまりを作って考える学習をしている。

≪学習問題≫

太郎さんたちは8人で電車に乗ります。赤の電車は１人500円，青の電車は1人300円です。お母さんが，「8人分の乗り物代の違いが2000円より多かったら，安い方の電車にしよう」と言いました。太郎さんたちは，赤い電車と青い電車のどちらに乗ったでしょうか。

≪学習問題≫



主眼

授業計画･実施記録

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②見通し:何と何をまとまりにして考えたらいいか分からない。

→それぞれの乗り物代の一人分の違いを考えればよい。

②学習課題:図や絵をつかって，一人分の乗り物代の違いがいくらかを考えて，8人分の乗り物代の違いを考えよう。

③個人追究:テープ図などで違いを確認し，式と関連付けて求め方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

｢それぞれの考え方の表している違いは，どこだろう？｣

→「べつべつは一度に8人分の違い。まとまりは1人分の違の8人分。」

｢200円×8人分の方がすぐに違いが分かる。｣

④共同追究後半（思考を深める）

「べつべつに考えた違い」と｢まとまりを考えた違い｣は，本当に同じなのかな？」

→（図と対応させて）「500円は300円より1人200円多く払うということだから，違いは同じ。」

「まとまりの考え方は，人数や買う数が同じときに使える。｣

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・全体の違いは，一人分の違いを考えてから人数をかけて求めることができる。

・まとまりを考える方法は，数が同じときに使うと便利。

⑥定着･活用問題

8人乗ると，500円が400円になるというので，8人分でいくら安くなるかを「500－400＝100　100×8＝800円」と計算しました。

(1) 100が表しているのは何でしょう。

(2) いくら安くなるでしょう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時までの学習で，べつべつに解く方法とまとまりを考えて解く方法の2通りの解き方があることを理解しているので，本時も,「べつべつ」と「まとまり」の2通りの解き方を考えるように促してから個人追究に入るとよい。

・線分図や式に表れた「違い」に着目させることで,全体の違いは個々の違いの総和であることに気づかせたい。

【板書計画】